

## \*\*\* 第19期会長就任にあたって \*\*\*

第19期同窓会会長  
昭和49年卒 金属22期 戎 敬史



平成25年10月5日の総会におきまして第19期の会長に就任いたしました。私は昭和49年に金属工学科を卒業いたしました。大半の同窓生は企業、あるいは公的機関に就職していますが、私は家業であった船具店を継承するため実家に戻りその後会社(築港船具株式会社)を設立し現在もその会社の経営にあっています。

社名は船具となっていますが、ワイヤロープの端末加工と販売を含め土木及び産業資材の販売を行っています。ワイヤロープを取り扱うようになったのは、金属工学科の同級生数人がワイヤロープメーカーに就職していたことが大きな要因だったと思います。唯一、同窓生と関わったのはワイヤロープの関連でした。このように、他の同窓生の方とは少し違った社会を経験して今に至っているわけです。つまり金属、材料工学に関わってこなかった私が同窓会の会長をお引き受けするには若干の懸念がありました。人的な繋がりもありませんし、金属材料等の知識も乏しいと思うからです。しかしながら、お引き受けする限りはこの経営に関わってきた経験を活かし同窓会の運営に全力で取り組みたいと考えています。

今後の活動方針としては、従来の活動を踏襲していくつもりです。これまでに卒業した同窓生に対する情報伝達が重要な使命であることはもちろんですが、それ以上に現役学生に対して行っている事業がこの同窓会の存在意義を高めるものだと考えています。また、運営に当たった最大の問題は収支のアンバランスであることも明白です。収入を増やす方法があれば最善ですがすぐには良い方法は思い浮かびません。多くの方々のご意見をお聞きする機会を作り少しずつでも改善していきたいと考えています。

皆様方のご協力をお願いいたします。

## \*\*\* 会長退任のご挨拶 \*\*\*

第18期同窓会会長  
昭和49年卒 金属22期 橘堂 忠



大阪府立大学工学部金属・材料工学科同窓会会員の皆様には、益々ご清栄の段お喜び申し上げます。

昨年の平成25年10月5日開催の同窓会総会を持ちまして第18期会長の大役を無事終えることができました。振り返りますと、会長

就任の少し前に大学の体制の大きな変革があり、7学部から「工学域」、「生命環境科学域」、「地域保健学域」、「現代システム科学域」の4学域へ、金属、材料工学から名称変更したマテリアル工学科は応用化学科、化学工学科とともに物質化学系学類へ移行しました。この組織変更に対応するため金属・材料工学同窓会も規約変更等の必要があり、臨時総会を開催させていただきました。

またこの間に、同窓会名簿の発行があり、事務局を勤めていただきました金野先生、横田様には名簿内容の修正と確認作業に多大のご苦勞・ご尽力をいただきました。ここに厚く感謝致します。特に金野先生には本来の教育・研究業務が多忙なため、同窓会事務・連絡作業が深夜に及んだことがメールの配信時間から推察されました。まことにお疲れ様でした。ありがとうございました。

退任にあたり、気がかりなことを一点申し上げます。それは同窓会会計であります。諸先輩が過去に実施していただいた会費再徴収により一時期潤沢であった同窓会会計も時とともに怪しくなっていることです。この件につきましては主な収入が新入生の会費納入以外に無いため、戎新会長のもと経費節減に努められるとは思いますが、自ずと限界があることは火を見るまでもありません。

このような状況を脱するために、会員皆様方に浄財のご寄付をお願いする次第です。長年続いてきました同窓会の活動とその会計を健全に維持するためによりしくお願いします。

皆様のこころざしをお願いしまして退任の挨拶とさせていただきます。

**\*\*\* 追悼 金属工学科第5講座元教授の  
三谷裕康先生を偲んで \*\*\***

三谷裕康先生は、平成25年7月3日、享年98歳で永眠されました。ここに先生のご生前を偲び謹んで哀悼の意を表します。この訃報については、ほとんどの卒業生には知らされていなかったため、この小文を同窓会報に掲載していただきました。

先生は、大正5年9月にお生まれになり、昭和17年9月大阪帝国大学工学部冶金学科をご卒業後、山梨高等工業学校、(財)航空軸受研究所、京都帝国大学工学部講師、(株)大阪合金工業所勤務を経て、昭和24年4月に化学工専(後に浪速大学、大阪府立大学になる)の講師に赴任されました。昭和25年3月に金属工学科第5講座の助教授になられ(当時の教授は若本洋之助先生)、工学博士(京都大学)の学位取得の後、昭和29年6月1日に、教授に昇任され、昭和39年2月に大阪大学へ転出されるまで、金属工学科第5講座(金属化学)を担当されました。教授昇任後の講座は、井垣謙三先生(後東北大学)、中西典彦先生(後京大、甲南大学長)、野里僚一先生(後姫路工大)で構成され、その後、大学院生であった大西正巳先生(後阪大、九州工大)とさらに後に杉野重明先生が加わって、活気あふれた講座を担当され、多くの卒業生を送り出されました。なお、先生は昭和55年4月1日、阪大を停年退官、阪大名誉教授を授与され、その後高知工専校長を務められました。

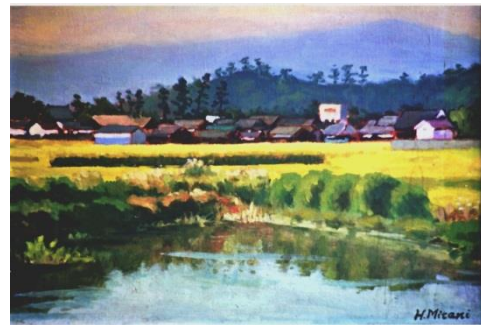
先生のご趣味は、言わずもがな絵画で、卒業生には先生の油絵を撮影した年賀状がたびたび送られてきました。先生は学生時代から油絵に熱中されたと聞いていますし、山梨工専から京大の西村研究室へ内地留学された折、研究室に墨絵が随所に飾られていたとか、しかも西村先生は小磯良平画伯とフランスで一緒だったとかで、絵画の話に大いに盛り上がったということを大阪冶金会誌に書かれています。

教授室においては絵筆を常に握っておられた姿を多くの学生が覚えています。府大の研究室にも多くの先生の絵画が掲げておられました。平成10年10月の1週間ほど、堺筋の画廊で回顧個展を催され多数の卒業生が拝見し、セミプロ級の絵画に感服したこともありました。

ここに、先生を偲び、謹んでご冥福をお祈りします。



(在りし日の三谷先生)



(なかもずキャンパスの池から見た古墳  
(昭和39年ごろの先生の作品))

**\*\*\* 変遷 \*\*\***

昭和49年卒 金属22期 高津 正秀



まずは、退職に際して数々の心温まるご祝福を戴いたマテリアル工学分野の教員各位、特に社会基盤材料グループの教員並びに学生諸君に感謝したい。今年、教員の定年退職が府大全体で私一人という前代未聞の年。2年の定年延長と同時に施行された選択定年制

により、当初予定通りの旧定年(63)で退職した結果である。職責を全うしたとは言えないかもしれないが、我が人生に悔いはなく、多くの方々に支えられてここまで来れたこと、そして元気で定年を迎えられたことを嬉しく思う。

私が府大に入学したのが昭和44年、当時の金属工学科は改称前の浪花大学が発足した昭和24年にすでにあったそうだ(ただし、学科でなく部門)。それが材料工学科(一部機能物質科学科)に変わったのがバブル崩壊後の平成5年、実に44年間金属工学科は続いた。材料に変わってからわずか12年の平成17年、法人化に伴う2度目の工学部再編でマテリアル工学科となり、さらに7年後の平成24年、学域学類制に移行してマテリアル工学課程となった。これは近年、時の流れがすごい勢いで加速していることを意味する。その原動力となったのはコンピュータの発達とそれに伴う情報革命だろう。これらは科学技術の目覚ましい発展をもたらし、社会構造や地球環境まで急速に変えてしまった。当然、学科(分野)のキャラクターも名称変更とともに大きく変貌したが、そんななか塑性加工一筋にやってこれたのは、日本のものづくりを支える基幹技術であり、素材を超えた幅広いニ-



ズが持続したからだろう。

私の入学した年は安田講堂事件の年で、府大でも経済学部が封鎖された。よど号ハイジャック事件はその翌年で、学友の中にも北朝鮮を理想の社会と信じている者がいた。その年は大阪万博の年でもあり、アポロ11号が持ち帰った月の石が展示されているアメリカ館には長蛇の列が出来ていた。田中内閣のもとでの高度経済成長の反動で労働運動も激しさを増していた。当時の自由と平等、資本主義と社会主義という世界を二分するイデオロギーの対立は、技術革新の加速に追従できなかったソ連の崩壊とともに解消し、ストで電車が止まることもなくなった。学園紛争はすぐ鎮火したものの、我々の学生時代には有権者の過半数が戦前の教育を受けた人たちで、戦後の日教組教育を受けた若者との思想のギャップは大きかった。今、その団塊の世代が70代～60代になり、逆に若年層の右傾化が目立つ。近年の世相の変化には、教育もさることながら、過激なブログなどネットの影響も大きい。

世の中便利になれば、また、良いものを安く造れるようになれば時間的・経済的なゆとりが生まれ、心も豊かになる。それが研究開発の目指すところであるべきなのに、現実には競争を激化させ、自分で自分の首を絞めるようなことになってはいないだろうか？ アメリカ流の競争至上主義が人類に真の幸せをもたらすとは到底思えない。互いを高め合う競争でなく、消耗戦になっているように思えてならない。日本人がアメリカ人や中国人、韓国人と違うところ、それは協調（和）の精神だろう。競争も強調も度を越すと不正や無駄の温床となる。自由と平等のバランスが重要なように、競争と協調のバランスをうまくとっていくことが今後の人類の課題だろう。



写真は、先日、箕面観光ホテルで開催された金属22期40周年記念同窓会のものである。約40%にあたる18人もの参加が得られたのは、戒会長、宮野副会長らの長きにわたるご尽力の賜物である。仕事を続けている者は

多いが、大半が第一線を退いており、多くの参加者にとって人生の節目の会であったに違いない。地の利(伊丹、新大阪から近い)で選んだホテルだったが、奇しくもここも高度成長期に建造されたリゾートホテルの先駆けであり、時代の変遷とともにその役割を終えた。その後、大江戸温泉物語によって再建され、昨年リニューアルオープンしたばかりである。腹が出、頭髪が薄れ、しわやシミは増えたものの、ホテル同様みんなリフレッシュして生気がみなぎっているようにすら思えた。翌朝、私はやらないが、多くがゴルフ場へと消えていった。

私も今、学生時代からの趣味である囲碁と水泳で頭と体をリフレッシュしている。再就職は考えていないが、塑性加工学会は継続しており、また、改めて客員研究員として任用されたので、府大にも、たまに伺うことになる。義務と責任から解放された今、自分に何ができるかじっくり考え、悔いのない一生を送りたいと思う。

### \*\*\* 3Dプリンティング技術と産技研 \*\*\*

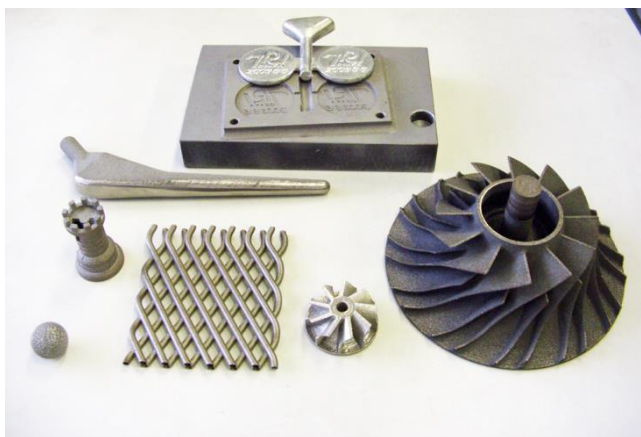
平成2年卒 金属38期 久米 秀樹

3Dプリンティングが日本発の技術であることは、意外と知られていないかもしれません。1980年に名古屋市工業研究所の小玉秀男氏が、「立体図形作成装置」として世界初の特許出願を行いました。この出願は審査請求されませんでした。1984年には、筆者が所属している大阪府立工業技術研究所（現：大阪府立産業技術総合研究所（産技研））の丸谷洋二氏と米国のCharles W. Hull氏がそれぞれ特許出願を行い、その後、権利化されました。なお、機器の製品化では米国が先行し、C. W. Hull氏が立ち上げた3D System社が1987年に世界初の実用機を発売しました。

3Dプリンティングの方式は、発明当初は光造形方式が主流でしたが、その後、粉末焼結積層造形方式、インクジェット方式、樹脂溶解積層方式など様々な方式が考案され、製品化されています。技術の進歩に伴い、その応用範囲は、樹脂モデル作製に始まり、現在では、個人の趣味レベルから金属工業製品の製造に至るまで大きく広がっています。

産技研においても、3Dプリンティングに関する草分け的存在として、発明当時からこれまでの間、技術開発や技術支援に携わってきました。現在では、金属粉末積層造形装置2台、プラスチック粉末積層造形装置1台、インクジェット方式3Dプリンター1台を保有し、多くの企業や大学との共同研究、技術相談や機器開放等の技術支

援業務に活用しています。さらに、今後の3D技術に関する企業ニーズの高まりに応えるため、平成26年12月1日には、「ものづくり設計試作支援工房」を開設し、3D技術を活用した設計・試作に関する総合的なサポート体制を整えます。この工房が、同窓生の皆様のご所属や母校大阪府立大学との連携拠点のひとつにもなればと願っています。



金属粉末積層造形装置で作製した造形品の例

### \*\*\* 産学官連携～URAセンターから 見た大阪府立大学～ \*\*\*

昭和54年卒 修士 辻川 正人

平成23年、大阪府立大学に地域連携研究機構が設立され3年が経とうとしている。文部科学省の強い指導（配備への助成金が公募された）で平成24年4月にはリサーチアドミニストレーションセンター（通称URAセンター）が設置され、5月から辻川は工学研究科を退職し、非常勤教員の身分でこのURAセンター教授となった。配備の助成金は採れなかったが文科省からの管理下におかれることも無く、大阪府立大学のURAセンターは独自の活動を進めている。

URAセンターのミッションは明確である。外部資金による研究費の獲得である。府大重点項目の中の外部資金獲得目標額は平成28年度には40億円と設定されている。

府大が法人化され、府立3大学が統合し、理系大学へと学部が再編された結果、平成17年当時の外部資金獲得額20億円程度から、平成23年には35億円に達した。しかし、これら個々の教員の努力にも限界が来たようで頭打ちの様相が見えてきた。

一方で、文科省は日本にある約1200の大学を機能的に分化することを決め、高度研究型の大学には数億円の研究費が毎年投入されることになった。東大、京大、東北

大、阪大をはじめとするトップ大学とそれをサポートするような全国で20位程度までの大学がそれである。残念ながら府大は大学としては40位台であり、高度研究型とだけ名乗ることはできない。高度研究型大学が享受できる数億円の研究費を自前で調達しない限りこれらの大学との競争に加わることもできなくなる。プラス5億円が必要な所以でもある。

それでは文科省にとって府大はどのような大学であるか。彼らの考える地域貢献型大学ではない。地域貢献型大学とは、医学部があり教育学部がある地方国立大学のような大学で、医者や教員を地域に供給できる大学である。

どちらでもない府大は、産学連携による産業振興を社会貢献とするしかない。産学連携によって国から研究費を調達するという産学官連携が、多額の経費を要する研究を続けるために必要というのが府大の現状である。

学長一下全学教員が産学連携を推進した結果、平成25年度の外部資金獲得額は37億円を超えた。さらなる産学官連携には府大のパートナーとして府大をサポートしてくれる企業群が必須である。府大の連携相手は大企業ばかりではない。産学連携先の約40%が中小企業である。そして高度の基盤技術を持った中小企業によるものづくりの多様性が大阪の大きな特徴である。しかし、彼らはどんどん廃業していつている。

後継者が継がない、後継者の担うべき新規事業が無い、わからない、という現状に向かわねばならない。現在中小企業を提案型の企業に進化させ、新規事業の拡大から上場までをサポートするという長期計画を進めている。未永く府大のパートナーとなってもらえる企業は育てなければ生まれない。研究型の大学として返り咲くために、同時に大学に求められる教育・研究・社会貢献という使命を全うするために、地道な産学連携が求められている。

そう考えると同窓会というのは産学官連携の宝庫である。同窓会活動の活性化に本格的に取り組むべき理由がここにもある。

### \*\*\* 大雪の中の府大東京同窓会 平成26年新年会（報告） \*\*\*

昭和39年卒 金属12期 鈴木 滋男

関東在住の府大卒業生の集まりである大阪府立大学東京同窓会が発足して23年。その恒例行事として毎年2月早々に東京信濃町の明治記念館で新年会行事が行われ、今年は2月15日（土）14時から行われました。私は3年



前から25名の幹事の一人としてお手伝いしています。

○まず、参加者数(含:来賓)ですが、今年は140名の参加が予定されていたところ、当日は前夜からの大雪で積雪が甚だしく、その影響で出席取り止めの連絡が相次ぎましたが、結果的には欠席が30名に留まり、例年並みの110名の出席が得られたことは不幸中の幸いでした。

○さて、新年会の行事内容は総会、講演、立食パーティーの3部に別けて進められました。

### 1. 【総会】

・大竹会長代行(工機 S36)の開会挨拶の後、同窓会の予算人事案件が審議され、その中で、新会長に日柳氏(農 S42 卒)の就任が承認されました。その後、大学当局(今井理事)からパワーポイントを用いて最近の府大および学生諸君の活動状況について報告がありました。

### 2. 【講演会】

・今年は兄弟校である首都大学東京のOBということで若手登山家の服部文祥氏(45)が講師となり、「サバイバル登山〜究極の単独行〜」と題し、氏の実践する登山流儀の紹介があり、奇を衒わないバランスの取れた語り口と、非日常的切り口で、聴衆も大変満足された様子でした。

### 3. 【立食パーティー】

・2階の大広間に会場を移し、立食パーティーが行われました。正面舞台右半分で軽音楽部OB/OG有志が、軽音楽を演奏する中、グラス片手に談笑が弾み賑やかな会合となりました。

・我が金属・材料工学同窓生について言えば、予定9名中3名の方(阿島:工 S37、山本:工 S39、新谷:修 S49)が雪のため欠席。出席者は、予定の6名(相部:工 S39、鈴木:工 S39、長田:工 S46、竹田:修 S48、池永:修 S49、中平:修 S50)および当日申し込み参加の1名(安藤:修 S50)を加え合計7名でした。ただ、安藤氏は部活(アイスホッケー)の繋がりで参加されたようですが、そうとは知らなかったのが当日お会いする機会を逸してしまいました。他の5名の方とは大いに歓談でき、その様子はスナップ写真に収めました。(写真1:金属・材料工学科OB)

・パーティーの後半には福引に一喜一憂し、学生歌斉唱に声を張り上げた後、記念写真の撮影に移りました。カメラマンは私。カメラは高級とは行きませんが、高い脚立に登りアングルを確保し、大型の外付けフラッシュを光らせて無事撮影終了。(写真2:平成26年新年会記念

写真)



写真1 金属OB 6名

・終わりに、来年の新年会担当学部(工学部)の代表幹事の中野氏(経工 S41)から閉会挨拶があり、来年の再会を約して、17時半過ぎに盛会裡にお開きとなりました。

○来年は2月11日(水・祭)午後から明治記念館で開催予定です。多数のご出席をお待ちしています。また、当同窓会は、「中もず会」の名称で2ヶ月に1回サロン講演会を有楽町東京フォーラムで開催しております。新たに関東地区在住となられた方等、府大東京同窓会あるいは新年会や中もず会にご関心のある向きは、大府立大学東京同窓会のHPを訪れるなり、私宛にお問い合わせ下さい。(suzukike@cablenet.ne.jp)



写真2 東京同窓会新年会

## \*\*\* 府立大学一期生だより \*\*\*

昭和28年卒 金属1期 覺心 康悦

一期生が卒業したのは昭和28年(1953年)で61年も昔のことになってしまいました。何時の頃からか?「府大金属二八会」の名称のもと、毎年欠かさず同窓会を開催しています。当時は終戦間もない頃でしたので、同窓生の中には戦争に参加し終戦後復学された方など幅広い年齢層で、現在の最高齢者は90歳近く、一番若い筆者で

すら83歳になりました。その為参加者も年々減り、今年の4月8日に開催した同窓会はこの写真の通りわずか8名の淋しい同窓会になりました。

席上の話題も有意義な情報交換とは言え、中身は健康維持の秘訣や病気克服の体験談に終始するのがいつものパターンです。唯一今年の新しい話題は、数年前に農学部が開発した古代米(赤米)を原料にした日本酒「なにわの育」を府大の生協で購入し試飲した事でした。普通の日本酒とは一味違う「府大の酒」がもっとPRされ、手近に入手出来れば良いのと思いました。2時間あまりがアッと云う間にすぎ、お互いの健康を祈念しながら、来年の再開を約束し散会となりました。

老いたりとはいえ、社会の片隅で府大を見守っている一期生が居ることをお伝えしたくて寄稿致しました。

現役の各位の益々のご活躍を祈念致します。



左から 古家 武上 岡本 福井 鳥居 甲田 平田 覺心

した。懇親会は平井さん(喜寿の方で誕生日が開催日に一番近い)の乾杯で開会し、その後各氏の近況報告や母校の近況など色々な話題が有りましたが、その中で府立大学東京同窓会が有り、東京近辺に在住の3名が出席され、その時の様子が報告されると一同驚いたようでしたが、旧大阪女子大の同窓会が引き継がれて居る様で、皆納得いたしました。盛会のうちに懇親会は約2時間で終了し、幹事室で二次会と成りましたが、例年は10名近くの方が集まりましたが今回は寄る年並みのせい、4~5名のみやや寂しい二次会でした。翌日の朝食後に自由解散し、ゴルフ(賢島カントリー)や周辺の旅行にと出かけました。



なお、本年平成26年は卒業55周年の記念同窓会を同じ「宝生苑」で行う予定です。今年の同窓会は少し趣向を変えて、全員で伊勢神宮参拝を企画いたしております。多数の方々の御参加をお待ちいたします。

### \*\*\* 金属8期同窓会報告 \*\*\*

昭和35年卒 金属8期 増田 丈郎

平成25年の同窓会は「喜寿を祝う」(昭和12年生まれ)と銘打ち、9月11~12日に行いました。我々8期生は34名が卒業し、今回の同窓会の時点で、物故者は上田実彦、奥田典宏(旧姓宇山)、杉浦重道、中川省、柳沢福の各氏で5名、連絡先不明や永久欠席者が4名で連絡が取れる方々は25名です。今回はこの内19名が出席され開催されました。時代のお陰で殆どの方はメールを使用されるので連絡はスムーズに行く様に成りました。

さて同窓会の会場は、賢島の「宝生苑」で、午後4時同苑のロビーに遅刻者も無く全員集合し、入浴後午後6時より懇親会を開催いたしました。関西地区だけでなく仙台、静岡、高松など遠方よりも参加され非常に盛会で



今回の参加者：(敬称略、出席簿順)

阿知波、小田、北村、合田、田代、田中(彬)、田中(秀)、  
玉木、辻、中島、奈須野、秦、平井、増田、  
三瀬、山崎、山本(晃)、山本(時)、横田、の19名の方々です。



## \*\*\* 工学域共通科目

## 「エンジニアのためのキャリアデザイン」 \*\*\*

昭和61年卒 金属34期 井上 博之

本年度から、工学域の共通科目として、「エンジニアのためのキャリアデザイン」が開講されている。本科目では、毎週、産業界で現在活躍されている技術者や各種専門職、経営者の方々を1名ずつお招きし、工学域の3年次の学生に講義をしていただいている。工学系の学生が自らのキャリアを構築する際の参考とすることを目的として、これからエンジニアとして活躍するために今（学生時代）ならびに近い将来（大学院生・若手社員時代）に何を学んでおくべきかなどを、ご自身の体験や携わった研究プロジェクトでの経験に基づいてお話いただいている。

本科目は工学域の各課程が3回ずつ持ち回りで担当し、その内の1回の講師を、学科同窓会を通じて担当課程の卒業生に依頼することとなった。金属・材料工学科同窓会では、本年度の講師として、日新製鋼株式会社の技術研究所長の安藤敦司様を推薦させていただいた。安藤様は、昭和58年に金属工学科を、同60年に博士前期課程（修士課程）の金属工学専攻をそれぞれ卒業・修了された後、直ちに同社に入社され、溶融めっき法による表面処理鋼板の研究や開発、実用化などに携わってこられた。

安藤様のご講義は6月18日（水）の第5限目にA5棟（旧工学部8号館）の大講義室でおこなわれた。講義の前半では、学部生時代の友好祭委員としての活動ならびにアメリカンフットボール部（府大シュライクス）の設立や体制作り、初期の試合での苦労などを、また研究室配属による恩師故山川宏二先生との出会い、研究に没頭した新入社員時代などについてお話いただいた。また後半は、ご自身が取り組まれた開発を題材に、企業での研究の取り組み方や実用化の難しさ、製品化された時の達成感についてお話し下さった。



A5棟(旧工学部8号館)大講義室で講演される安藤敦司様

学部生時代のご経験から、多様な意見を持つ集団を、活性度を維持しながらその結束を強めるには、目的に対する理念を語ることが重要であり、そのトレーニングとしての読書の大切さを強調された。恩師の山川先生から研究に対する熱意と自分の頭で考えることの重要性を学んだこと、ならびにこの姿勢が自分の研究開発の基本であり成功の鍵となったことを語られた。さらに、学生時代は自分のテーマに没頭できる唯一の期間であり、そこで培われた考え方・見方が、たとえ70点であっても定められた期日までに答えを出すことが要求される企業での研究開発においても、高い質を保ちまた前向きに取り組む原動力となることを話された。また就職活動では、会社をイメージでとらえるのではなく、実際に訪問し自分で感じるということが重要とのアドバイスをされた。

企業での研究開発で画期的な成果を上げられた方のお話しであり、学生はもとより一緒に聴講させていただいた教員にとっても大いに参考となるご講義であった。末筆ながら、お忙しい中、充実した発表資料を用意いただき、長時間にわたり熱心にご講演下さった安藤様に心より御礼を申し上げます。

## \*\*\* 80才人生 \*\*\*

昭和32年卒 金属5期 米田 喜重郎

5期は毎年同窓会をやっています。今来年には大半が80才になります。43人が卒業して13人が鬼籍に入りました。平均的80歳人生を同窓会の話題や返信ハガキより、万年幹事の私が独断と偏見でまとめました。

1. 日常：結構ハッピーだ。「毎日が日曜日」が習性になる。粗大ゴミと言われても家はあるし年金もある。贅沢は出来ないが小ゼニには不自由していない。かといって大金のあるヤツは羨ましい。
2. 健康：適度に維持している。もの忘れがひどくなった。足腰が弱ってきたが車は運転出来る。毎日散歩はやっているが歩き過ぎる事は止められている。一部の臓器が弱ってきたが寿命が来るまで放っておく。
3. 趣味：ゴルフはパーティに迷惑をかけるのでやめた。マージャンは相手がいない。読書は目も頭も衰えてきたので苦痛だ。音楽は難聴が始まっているので何を聞いても眠くなる。海外旅行は資金がない。囲碁をやっているやつだけは現役で頑張っている。カネはいらんし体力もいらん。
4. TV：スイッチは一日中入ったままだ。NHKニュー

ースはしっかり見ている。女子アナがいい。

5. アレ：早くから駄目になっていたが興味は衰えていない。

6. 女房：カァちゃんが頼りだ。俺より一日でもいい元気で長生きして欲しい。

7. スーパー：女房に付いて歩くのが平気になった。

8. コンビニ：レジで代金を払って品物を忘れることが増えて来た。

9. 酒：弱くなった。医者に止められているので余計にうまい。盗み酒が習慣になった。

10. 人間ドック：これ以上長生きしなくて良いと思っ  
ていても気になる。やっぱり行く。

11. 認知症：これだけはなりたくない。ポルノを見ると予防になるらしい。

12. 服装：半ズボンをはいてリュックを背負ってるやつはあっちの世界へ行く準備だ。

13. ズボンのファスナー：閉め忘れの頻度が高くなった。やがて来る開け忘れが怖い。

14. 友達：少なくなった。いいやつは死んだ。同窓会は絶対に行く。

15. タイガース：勝っても負けても良い。長嶋だけは嫌いだ。

16. 孫：小っちゃい間はかわゆい。時々は煩わしい。

17. パソコン：進歩が早すぎて着いて行けない。知らんでも差し支えない。

18. スマホ：行き先が秘密に出来ない。持たない方が  
良い。

19. ケータイ：電話とカメラだけ使う。デジカメより  
良い写真が撮れる。動画も撮れる。

20. AKB48：宝塚よりずっと可愛い。

21. ネクタイ：ロープタイだけはしたくない。じじく  
さい。

22. 選挙：暇やから行く。必ず行く。候補者は行って  
から決める。

23. 名刺：作ってあるが使うとこがない。肩書きがな  
いのが辛い。

24. 洗顔：年をとると目ヤニがひどくなって見苦しい。  
念入りに朝晩洗顔する。

25. 英語：もうチョットやっいたら良かった。

26. 美女：今でもすれ違ったら無意識に振り返る。浅  
ましいと思う。

27. 出世：学問は関係ない。

28. トイレ：先に手を洗う。大事なところは清潔な手で  
触れる。

29. 若者へ：女房は丈夫で長持ち、美女より才女。

30. 高校同窓会：あの恋が実らなかって良かった。

### \*\*\* 平成25年度卒業生の進学・就職状況 \*\*\*

#### ◇平成25年度就職状況

	卒業者数	内 訳		
		進学	就職	その他
学部卒	41	34	5	2
修士修了	25	2	22	1
博士修了	5	0	2	3

#### ◇就職先、進学先など

##### <学部卒>

堺市役所、(株)トライグループ、日本電気(株)、日本ペイント(株)、UCC上島珈琲(株)、大阪府立大学大学院、大阪大学大学院、京都大学大学院、九州工業大学大学院、東京大学大学院

##### <博士前期課程修了>

(株)インテリジェンス、共英製鋼(株)、京セラ(株)、(株)クボタ、山九(株)、サンディスク(株)、(株)ジェイテクト、新日鐵住金(株)、住友電気工業(株)、大同特殊鋼(株)、トヨタ自動車(株)、日亜鋼業(株)、日揮(株)、日鐵住金鋼管(株)、日東電工(株)、(株)日本製鋼所、本田技研工業(株)、三菱自動車工業(株)、三菱重工業(株)、ヤンマー(株)、大阪府立大学大学院

##### <博士後期課程修了>

独立行政法人産業技術総合研究所、東京大学大学院

### 事務局からのお知らせ

#### 第18期総会だより

第18期総会が平成25年10月5日、「I-site なんば」にて開催されました。事業実施報告、決算報告ならびに監査報告がなされ、次期役員、次期活動方針等が決定されました。(出席者数：29名) 地方独立行政法人大阪府立産業技術総合研究所 平田智丈氏 (H10年卒、工材2期) にご講演いただきました。

#### 事業実施報告

##### 1.第27回マテリアル工学分野講演会の共催(H25.9.25)

下記の通り、3名の方にご講演いただきました。

- ・一般社団法人日本鉄鋼協会 参与 脇本眞也 氏  
「日本の鉄鋼業とそれを支える技術者・研究者」
- ・大同特殊鋼(株) 研究開発本部 特殊鋼研究所長  
長島友孝 氏 (昭和62年卒)  
「特殊鋼の最近の開発動向」
- ・大阪府立大学マテリアル工学分野教授 森 茂生 氏



「電子顕微鏡を用いた物質・研究材料」

## 2.卒業修了祝賀会兼新入会員歓迎会の開催、及び

### 卒論修論発表優秀賞等の贈呈(H263.24)

- ・卒業生（マテリアル6期生）40名を新入会員として迎え入れました。
- ・卒論、修論発表優秀賞等の贈呈  
我会長より賞状と副賞が贈呈されました。受賞者は別途送付用紙をご覧ください。

## 3.第28回マテリアル工学分野講演会の共催(H26.4.8)

下記の通り、3名の方にご講演いただきました。

- ・若狭湾エネルギー研究センター所長  
大阪大学名誉教授 中嶋 英雄 氏  
「結晶格子中の原子のジャンプと拡散」
- ・大阪府立大学マテリアル工学分野  
准教授 堀 史説 氏  
「陽電子の世界：その起源と医療、材料科学への応用まで」
- ・大阪府立大学マテリアル工学分野  
助教 石井 悠衣 氏  
「カゴメ金属における強相関電子物性」

## 第19期理事会だより

第19期理事会が下記の日程で学内にて開催されました。mt1ニュースのホームページ掲載について審議し、承認されました。mt1ニュース第10号よりホームページに掲載します。寄付者等の個人情報には別途送付の用紙をご覧ください。

平成26年11月2日（日）

出席者数：21名



## 会費納入・寄付金のお願い

現在、本同窓会会員は3,032名、うち2,064名の方には終身会費をご納入いただいています。各種講演会等の実施、「mt1 news」の発行、名簿の整備、在学生への支援など、同窓会活動の活動資金として、同窓会費は必要不可欠となっております。まだ終身会費をご納入いただいていない方にはぜひともご理解・ご協力をいただき、終身会費をお振込みくださいますようお願い致します。

また、ご寄付を頂戴しました方々におかれましては、誠に有難うございました。同窓会活動に有効にご利用させていただきます。

同窓会活動のため、活動資金への皆様方のご協力、ご

支援をよろしくお願い申し上げます。各種お振込みには、mt1ニュース送付状と同封の振込用紙をご利用ください。

〈お断り〉既に終身会費をご納入済みの方が再び終身会費を振り込まれた場合、誠に勝手ながら寄付金としてご納入くださったものとさせていただきます。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い致します。

終身会費納入状況につきましては、電話、メール、FAX等にて事務局までお問い合わせください。

## 寄付金納入者ご芳名

別途送付の用紙をご覧ください。

ご芳名録の作成には、万全を期したつもりではおりますが、万が一お名前の脱落がございましたら何卒ご容赦下さい。ご連絡いただけましたら、次号に掲載させていただきます。



## 投稿記事募集

次号「mt1 news」の記事を募集致します。奮ってご投稿のほどよろしくお願い申し上げます。なお、原稿採否については編集委員会にご一任下さいますようお願い申し上げます。



1. 募集内容：近況報告、同期会など報告、わが社の(新)技術、(新)商品など紹介、ほか(タイトル、氏名、写真を含め400字詰め原稿用紙2枚以内)
2. 投稿方法：氏名、卒業の年度及び期を明記の上、原稿をメールにて送付あるいは郵送して下さい。  
(新)技術、(新)商品などの紹介の場合は会社名と所属もご記入下さい。
3. 投稿先：金属・材料工学科同窓会事務局
4. 締め切り：平成27年4月末

(問合せ先)

大阪府立大学工学部 金属・材料工学科同窓会事務局  
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1番1号  
大阪府立大学大学院工学研究科マテリアル工学分野内  
Tel:072-252-1161(内5735) Fax:072-254-9912  
E-mail: dousou@mtr.osakafu-u.ac.jp